

フックターの内部自己同型写像の接合積への拡張

大阪教育大 長田 まり子

A は von Neumann algebra, G は discrete countable group, α は G から A の automorphism group への表現とし, A の G による α に関する接合積 $R(G, A, \alpha)$ を M で表わすことにする。 A の automorphism の拡張と見なせる M の automorphism 全体の可変群を $\text{Aut}(M, A)$ とし, A の automorphism の拡張と見なせる M の inner automorphism 全体の可変群を $\text{Int}(M, A)$ で表わす。 $\text{Aut}(M, A)$ の研究は, 主に, Singer による group measure space construction による finite factor M に対して行われた ([13])。 G は A の freely acting automorphism の可変群としたとき, $\text{Int}(M, A)$ の要素の構造に関する, いくつかの結果は [2], [3], [9], [11] で得られ, [1] に於て, $\text{Aut}(M, A)$ の Singer の結果の拡張がこころみられている。又 $\text{Aut}(M, A)$ の要素と G の 2-cocycle との関係が, von Neumann algebra の群による接合積の一般化を考へることにより, [7], [12], [4]

[16] 等を得られている。

ここでは、 \mathcal{A} は \mathcal{M} の \mathcal{A} と仮定し、 $\text{Int}(\mathcal{M}, \mathcal{A})$ 及び \mathcal{A} は inner automorphism であるような \mathcal{M} の automorphism 全体の下方群を、群 G との乗算のもとで、決定付ける問題について記す。

尚、ここでは話を統一する為に、扱う群 G は discrete countable group とするが註述へる様に、結果のあるものは、 G が locally compact group のときも成立する ([6])。又、乗積 $R(G, \mathcal{A}, \alpha)$ と共に、乗積 $R(G, \mathcal{A}, \alpha, \psi)$ (一般化された乗積で定義は下記) も取り扱う。

$\text{Int}(\mathcal{M}, \mathcal{A})$ について

\mathcal{A} は separable Hilbert space \mathcal{H} の von Neumann algebra とし、 $\text{Aut}(\mathcal{A})$, $\text{Int}(\mathcal{A})$, $\text{Out}(\mathcal{A})$ により、 \mathcal{A} の automorphism, inner automorphism, outer automorphism 全体の下方群を示す。

G は discrete countable group, α は G から $\text{Aut}(\mathcal{A})$ への写像で、次の条件 (1) を充たすものとする；

$$(1) \quad d g h^{-1} d g d h \in \text{Int}(\mathcal{A}), \quad g, h \in G.$$

この (1) の inner automorphism を $i(g, h)$ で記す。 G の単位元 1 に対して、 α_1 は identity automorphism ではないときは、

$d_g d_h^{-1} \in \alpha_g$ とおくことにより、 α は identity automorphism であることと仮定するこゝが出来る。 α の $2=2$ りの族 $\{ \sigma(g, h); g, h \in G \}$ が、次の二つの関係式を満たすとき、 (G, α) に関する factor set とよぶ:

$$\begin{cases} (2) & i(g, h)(x) = \text{Ad } \sigma(g, h)(x) = \sigma(g, h)x\sigma(g, h)^*, \quad x \in \mathcal{A} \\ (3) & \sigma(g, hk)\sigma(h, k) = \sigma(gh, k)\alpha_k^{-1}(\sigma(g, h)), \quad g, h, k \in G. \end{cases}$$

\mathcal{A} の各元 x と、 G の各元 g に対し、

$$\begin{cases} (4) & (\pi_\alpha(x)\xi)(g) = \alpha_g^{-1}(x)\xi(g), \quad \xi \in l^2(\text{bg}, G), \quad g \in G \\ (5) & (\rho_g \xi)(h) = \sigma(g, g^{-1}h)\xi(g^{-1}h) \quad \xi \in l^2(\text{bg}, G), \quad h \in G \end{cases}$$

とおくと、 π_α は \mathcal{A} の $l^2(\text{bg}, G)$ 上への normal representation となり、 ρ_g は各 g に対し、 $2=2$ りとなる。又、次の二式

$$\begin{cases} (6) & \rho_g \rho_h = \rho_{gh}(\pi_\alpha(\sigma(g, h))), \quad (g, h \in G) \\ (7) & \pi_\alpha(\alpha_g(x)) = \rho_g \pi_\alpha(x) \rho_g^*, \quad (x \in \mathcal{A}, g \in G) \end{cases}$$

が満たされる。 $l^2(\text{bg}, G)$ 上の $\pi_\alpha(\mathcal{A})$ と ρ_G により生成された von Neumann algebra は $R(G, \mathcal{A}, \alpha, \sigma)$ で示す。もし、 α が表現で、 G の全 $2=2$ りの元 g, h に対し、 $\sigma(g, h) = \text{恒等作用素}$ とするときは、 $R(G, \mathcal{A}, \alpha, \sigma)$ は、通常の積 $R(G, \mathcal{A}, \alpha)$ に他ならない。

$R(G, \mathcal{A}, \alpha, \sigma)$ を \mathcal{M} と表わし、

$$\text{Aut}(\mathcal{M}, \mathcal{A}) = \{ \beta \in \text{Aut}(\mathcal{M}); \beta(\pi_\alpha(\mathcal{A})) = \pi_\alpha(\mathcal{A}) \}$$

$$\text{Int}(\mathcal{M}, \mathcal{A}) = \{ \beta \in \text{Int}(\mathcal{M}); \beta(\pi_\alpha(\mathcal{A})) = \pi_\alpha(\mathcal{A}) \}$$

とおく。

以下, $\pi_*(\psi(g, h))$ を改めて, 同じ記号 $\psi(g, h)$ で記す. 又 A の inner automorphism 及び $\alpha_g (g \in G)$ は, その子 > 自然同形 π_* の M の automorphism に拡張することができるので, 同じ記号 $\text{Int}(A)$, 及び $\alpha_g (g \in G)$ でも, π_* を拡張された M の automorphism の群 及び automorphism を表わすことにする;

$$\text{Int}(A) = \{ \text{Ad } u \in \text{Aut}(M); u \in u(\pi_*(A)) \}$$

$$\alpha_g = \text{Ad } P_g|_M \quad g \in G,$$

ただし, $u(A)$ は von Neumann algebra A の \mathcal{U} 列の群.

$\text{Int}(A)$ 及び α_g は共に $\text{Int}(M, A)$ の部分集合であるが, これらから, $\text{Int}(M, A)$ は完全に決定付けられることができる.

仮定 (*) $\left\{ \begin{array}{l} A \text{ は factor, } G \text{ は discrete countable group,} \\ \alpha \text{ は (1) を満たす } G \text{ から } \text{Aut}(A) \text{ への写像;} \end{array} \right.$

仮定 (***) $\left\{ \begin{array}{l} (*) \text{ と同じ, } A, G, \alpha \text{ に対して, 単位元を除く全 } \\ \text{の } g \in G \text{ に対して } \alpha_g \in \text{Out}(A). \end{array} \right.$

$$u(M, A) = \{ u \in u(M); u \pi_*(A) u^* = \pi_*(A) \}$$

とおく.

定理 1. (*) のもとで, $u(M, A)$ の各要素 u は,

$$(8) \quad u = w w' f_g, \quad w \in u(\pi_*(A)), w' \in u(\pi_*(A)' \cap M), \\ g \in G$$

と記す. (***) のもとでは,

$$(9) \quad u = w f_g, \quad w \in u(\pi_*(A)), g \in G$$

と唯一通りにかける。

(証明) [5, Lemma 1] 1 = 5 → 2, $u(M, A)$ の元 u の Fourier 展開
 用いて $u = \sum_{g \in G} u(g) \rho_g$ ($u(g) \in \pi_\alpha(A)$) とする。 u は

$u \pi_\alpha(A) u^* = \pi_\alpha(A)$ を満たすから、全ての $a \in \pi_\alpha(A)$ に対して、

$$\sum_{g \in G} u(g) \rho_g(a) \rho_g = \sum_{g \in G} u a u^* u(g) \rho_g$$

を満たす。従って $u(g) \rho_g(a) = u a u^* u(g)$ が全ての $a \in \pi_\alpha(A)$ と
 $g \in G$ に対して成立つ。 $\rho_g^{-1} \text{Ad} u$ が $\pi_\alpha(A)$ の outer automorphism
 であれば、 $u(g) = 0$ とおらなければならぬ。後定まり u は

ユニタリであるから、 $\rho_g^{-1} \text{Ad} u$ が $\pi_\alpha(A)$ 上で inner とおらる $g \in G$

が存在する。 $w \in \rho_g^{-1} \text{Ad} u = \text{Ad} w$ とおらる $\pi_\alpha(A)$ のユニタリと

し $w' = \rho_g^* u w^*$ とおくと、(8) の関係が得られる。特に、

$\rho_g \in \text{Out}(A)$ ($g \neq 1$) ならば、[5, Corollary 3] 1 = 5)。

$\pi_\alpha(A)' \cap \mathcal{M}$ は scalar 全体と同型であるから、(8) より、

$u = w \rho_g$ ($w \in u(\pi_\alpha(A))$, $g \in G$) とかける。もし、

$$(10) \quad w_1 \rho_g = w_2 \rho_h, \quad w_1, w_2 \in u(\pi_\alpha(A)), \quad g, h \in G$$

ならば、

$$(11) \quad w_2^* w_1 = \rho_h \rho_g^* = \rho_{hg^{-1}} \circ (h, g^{-1}) \circ (g, g^{-1})$$

が成立つ。他方 [4, Theorem 6] 1 = 5) , \mathcal{M} から $\pi_\alpha(A)$ の \mathcal{E} への

faithful normal expectation e で $e(\rho_g) = 0$ \mathcal{E} 単位元を

除く G の全ての元 g に対して満たすものが存在する。従って、もし

(10) が $g \neq h$ なる $g, h \in G$ に対して成立つならば、(11)

6

により $w_2^* w_1 = 0$ となり矛盾。従って、(9)の分解は、唯一通りである。

系2 (*)のもとで、 M の inner automorphism は拡張できる A の automorphism β は次の形のものに限る。

$$(12) \quad \beta = \nu_\beta \cdot \alpha_g \quad \nu_\beta \in \text{Int}(A), \quad g \in G.$$

集合 $u(\pi_\alpha(A)) \times G$ 上に、次の関係 (13) で積を定義すると、この集合は一つの群になる。

$$(13) \quad (w_1, g)(w_2, h) = (w_1 \alpha_g(w_2) \alpha_{gh}(\nu(g, h)), gh).$$

この群を $u(\pi_\alpha(A))$ の G による extension group とし、 $E(G, u(\pi_\alpha(A)), \alpha, \nu)$ と表わす。

系3 (***)のもとで、 $u(M, A)$ は $E(G, u(\pi_\alpha(A)), \alpha, \nu)$ と同型である。又 M が通常の接合積 $R(G, A, \alpha)$ ならば、 $u(M, A)$ は $u(A)$ と G の semi-direct product と同型である。

(証) 定理1により、 $u(M, A)$ の元 u は $u = w f_g, g \in G, w \in u(\pi_\alpha(A))$ と唯一通りにかけらる。 $E(G, u(\pi_\alpha(A)), \alpha, \nu)$ から $u(M, A)$ への写像 σ を $\sigma(w, g) = w f_g, (w \in u(\pi_\alpha(A)), g \in G)$ で定義すると、 σ は $E(G, u(\pi_\alpha(A)), \alpha, \nu)$ から $u(M, A)$ への同型写像となる。

同様にして、集合 $\text{Int}(A) \times G$ に対して次の関係式 (14) の積を定義すると、この集合は群になる；

$$(14) \quad (\text{Ad}u, g)(\text{Ad}w, h) = (\text{Ad}(u \alpha_g(w) \alpha_{g^{-1}}(v(g, h)), gh).$$

この群を $E(G, \text{Int}(A), \alpha, v)$ と書き、 $\text{Int}(A)$ の G による積

(14) のもとでの extension group と呼ぶ。

系 4 (***) のもとで、 $\text{Int}(M, A)$ は $E(G, \text{Int}(A), \alpha, v)$ と同型であり、 $M = R(G, A, \alpha)$ ならば、 $\text{Int}(M, A)$ は $\text{Int}(A)$ と G との semi direct product である。

(証明) 定理 1 により、 $\text{Int}(M, A)$ の元 β は $\text{Ad}u \cdot \alpha_g$ とかけ、その分解の任意性は唯一通りである。 $\sigma \in E(G, \text{Int}(A), \alpha, v)$ から $\text{Int}(M, A)$ への写像 $\sigma(\text{Ad}u, g) = \text{Ad}(u f_g)$, ($u \in u(\pi_\alpha(A))$, $g \in G$) なるものがあると、 σ は $E(G, \text{Int}(A), \alpha, v)$ から $\text{Int}(M, A)$ への同型写像となる。

A の inner automorphism group の拡張全体について

ここでは A の inner automorphism の M への拡張全体の作る群の構造について記す。

$$K = \{ \beta \in \text{Aut}(M, A) ; \beta|_{\pi_\alpha(A)} \text{ is inner on } \pi_\alpha(A) \}$$

とおく。 K は $\text{Int}(M, A)$ と共に、 $\text{Aut}(M, A)$ の normal subgroup であるが、この群 K を G との関係のもとで決定付ける。

$\chi(G)$ と G の character 全体の同変群とある。

補題 5 (***) のもとで K の元 β に対して、次の (15) を満たす $\chi \in \chi(G)$ と $u \in u(\pi_\alpha(A))$ が存在する；

$$(15) \quad \beta(f_g) = \chi(g) u f_g u^*, \quad g \in G.$$

(証明) $\beta \in K$ より $\beta(a) = u a u^*$ と全ての $a \in \pi_\alpha(A)$ に対して満たす $u \in u(\pi_\alpha(A))$ が存在する。各 $g \in G$ に対して、

$$\begin{aligned} \beta(f_g) u a u^* \beta(f_g)^* &= \beta(f_g a f_g^*) \\ &= u f_g a f_g^* u \end{aligned}$$

が成立つから、 $f_g^* u^* \beta(f_g) u \in \pi_\alpha(A)' \cap \mathcal{U}$ が成立する。従って $\alpha_g \in \text{Out}(A)$ ($g \neq 1$) より、 $\pi_\alpha(A)' \cap \mathcal{U}$ はスカラー全体と同型である。 $\chi(g) I = f_g^* u^* \beta(f_g) u$ とおくと関係式 (15) が成立する。 G の元 g, h に対して、

$$\begin{aligned} \chi(gh) I &= f_{gh}^* u^* \beta(f_{gh}) u = f_{gh}^* u^* \beta(f_g f_h \psi(g, h)^*) u \\ &= \chi(g) \chi(h) I, \end{aligned}$$

より $\chi \in \chi(G)$ を得る //

$\chi(G)$ の元 χ に対して、

$$(u_\chi \xi)(g) = \overline{\chi(g)} \xi(g), \quad g \in G, \xi \in \ell^2(\text{ly } G)$$

とおくと

$$(16) \quad u_\chi a u_\chi^* = a, \quad a \in \pi_\alpha(A)$$

$$(17) \quad u_\chi f_g u_\chi^* = \overline{\chi(g)} f_g, \quad g \in G$$

を充たすから $\delta_x \equiv \text{Ad } u_x | \mathcal{M}$ とすると, $\delta_x \in \text{Aut}(\mathcal{M}, \mathcal{A})$ となる.

定理 6 (***) のもとで, 群 K は $\text{Int}(\mathcal{A})$ と $\chi(G)$ の direct product と同型である.

(証明) K の元 β には (15) を充たす $u \in \mathcal{U}(\pi_x(\mathcal{A}))$ と $\chi \in \chi(G)$ と取る. この χ に対して δ_χ と考えたと.

$$\beta \cdot \delta_\chi(a) = \beta(a) = \text{Ad } u(a) \quad a \in \pi_x(\mathcal{A})$$

$$\beta \cdot \delta_\chi(f_g) = \overline{\chi(g)} \beta(f_g) = \text{Ad } u(f_g) \quad g \in G$$

が成立つ. \mathcal{M} は $\pi_x(\mathcal{A})$ と f_g によって生成されているから.

$\beta = \text{Ad } u \cdot \delta_\chi^{-1}$ と分解できる. $\text{Int}(\mathcal{A})$ と $\chi(G)$ の direct product

から K の写像 σ を $\sigma(\text{Ad } u, \chi) = \text{Ad } u \cdot \delta_\chi$ と定義すると.

この σ は同型写像になる. 実際, もし $\text{Ad } u \cdot \delta_\chi = \text{Ad } w \cdot \delta_{\chi'}$

($u, w \in \mathcal{U}(\pi_x(\mathcal{A}))$, $\chi, \chi' \in \chi(G)$) が成立つてならば,

$\text{Ad } w^* u = \delta_{\chi'} \chi^{-1}$ が成立つ. 従って, $\text{Ad } w^* u | \pi_x(\mathcal{A})$ は identity

automorphism となり, w と u はスカラー λ の異なるから

$\text{Ad } u | \mathcal{M} = \text{Ad } w | \mathcal{M}$ となる. 故に $\delta_\chi = \delta_{\chi'}$ となり (17) より

$\chi = \chi'$ と得る.

系 7 (***) のもとで,

$$K_0 = \{ \beta \in \text{Aut}(\mathcal{M}, \mathcal{A}) ; \beta | \pi_x(\mathcal{A}) \text{ は identity automorphism} \}$$

とおくと, K_0 は $\chi(G)$ と同型である.

群 G に対し交換子群 $[G, G]$ ($\{[g, h]; g, h \in G\}$ の生成する群) が G と一致するとき, G は完全群であるという.

系 8 (***) のもとで, 次の (18), (19), (20) は同値である.

$$(18) \quad K = \text{Int}(A)$$

$$(19) \quad K_0 = \{1\}$$

$$(20) \quad G \text{ は完全群である.}$$

(証明) 定理 6 より (18), (19) 及び $\chi(G) = \{1\}$ は同値である. \mathbb{I} を複素平面の単位円周とすると $\chi(G)$ は G から \mathbb{I} への homomorphism 全体のなす群 $\text{Hom}(G, \mathbb{I})$ である. \mathbb{I} は可換群だから $[G, G]$ は $\text{Hom}(G, \mathbb{I})$ の各元の kernel に含まれる. 従って, $\chi(G)$ と $\text{Hom}(G/[G, G], \mathbb{I})$ は同型な群である. 故に, $\text{Hom}(G/[G, G], \mathbb{I}) = \{1\}$ と $\chi(G) = \{1\}$ は同値で, これは $G/[G, G]$ が trivial なる事と同値である //

(註) (*) のもとで, $\alpha_g \in \text{Out}(A)$ ($g \neq 1$) なる事と $\pi_2(A)' \cap M$ がスカラー全体と同型である事とは同値である. K に関する結果は G が locally compact group のとき, α が $\pi_2(A)' \cap M$ がスカラー全体とならざるような continuous action であるならば, その逆も成立する. 又最近, A を von Neumann algebra, $\alpha \in G$ から $\text{Aut}(A)$ への α_g が freely acting on A ($g \neq 1$) とならざるような写像

のとき、上の群 K に対する定理もは拡張されることになって来た ([17])。

References

- [1] H. Behncke, Automorphisms of crossed product, Tohoku Math. J., 21(1969), 580-600.
- [2] H. Choda and M. Choda, On extensions of automorphisms of abelian von Neumann algebras, Proc. Japan Acad., 43(1967) 295-299.
- [3] H. Choda, On freely acting automorphisms of operator algebras, Kodai Math. Sem. report, 26(1974), 1-21.
- [4] M. Choda, Some relations of II_1 -factors on free groups, to appear in Math. Japonicae.
- [5] _____, A characterization of crossed products of factors by discrete outer automorphism groups, Preprint.
- [6] _____, Extensions of the inner automorphism group of a factor. preprint.
- [7] J. Feldman and C.C. Moore, Ergodic equivalence relations, cohomology and von Neumann algebras, II, Preprint.
- [8] E. Hewitt and K.A. Ross, Abstract harmonic analysis, I. Springer-Verlag.
- [9] Y. Haga and Z. Takeda, Correspondence between subgroups and subalgebras in a cross product von Neumann algebra, Tohoku Math. J., 19(1967), 315-323.
- [10] R.R. Kallman, A generalization of free action, Duke Math. J., 36(1969), 781-789.
- [11] M. Nakamura and Z. Takeda, On inner automorphisms of

- certain finite factors, Proc. Japan Acad., 37(1961), 31-32.
- [12] _____, On extensions of finite factors, I, Proc. Japan Acad., 34(1959), 149-154.
- [13] I.M. Singer, Automorphisms of finite factors, Amer. J. Math., 17(1955), 117-183.
- [14] C. E. Sutherland, Cohomology and extensions of von Neumann algebras, I, II, Preprints
- [15] M. Takesaki, Duality for crossed products and the structure of von Neumann algebras of type III, Acta Math., 131(1974), 249-310.
- [16] G. Zeller-Meier, Produits croises d'une C*-algebra par un groupe d'automorphismes, J. Math. pures et Appl., 47 (1968), 101-239.
- [17] Y. Watatani, An extension of the inner automorphism group of a von Neumann algebra, 準備中.